

1. 目的

近年、科学技術の発展はめざましく、医療分野においても先端技術の高度化、関連職種の専門分化が進展し、保健医療を取り巻く社会情勢は大きく変化した。特に、高齢社会の到来に伴って疾病構造が変化した結果、病気や障害を抱えながら地域社会の中で日常生活を営む人々が急増し、在宅看護や介護など、保健・福祉・医療にかかわる看護ニーズが拡大し、多様化してきている。また、心身症や自殺者の増加など、心のケアを必要とする健康問題への支援が求められている。

とりわけ島根県は老年人口比率が高く、わが国の高齢社会の抱える問題を先行して体験していることに加え過疎化が進行する離島や中山間地域を抱えているところから、住民に豊かな保健・医療・福祉サービスを提供するためのシステムを模索している現状にある。

こうした健康問題の社会的・地域的要請に応えていくためには、高度な看護実践能力を持ち、保健・医療・福祉の有機的連携を調整する役割を果たせる看護専門職者と看護学研究者の育成が必須である。

本研究科は、豊かな人間性と幅広い視野をもち、科学的な視点と看護学の理論に支えられた卓越した看護実践能力と、創造的な教育・研究能力を持つ人材を育成し、看護学の発展と地域の保健・医療・福祉の向上に寄与することを目的とする。

2. 目標

各種医療機関、保健・福祉施設、教育・研究機関等で活躍する看護学分野における専門性の高い人材の育成を行う。

1. 高度な専門職業人の育成

看護の対象となる人々の QOL の向上や看護ケアの質の向上を図るために、深い人間理解と高度で専門的な知識と技術を有し、専門領域の分野で卓越した看護を提供できる能力を持つ人材を育成する。広い視野で保健・医療・福祉の資源を有効に活用し、一般看護職者のケアの質を向上させるための教育的機能を果たすとともに、専門分野の看護実践の場における研究活動を推進し、看護学の発展に寄与することのできる人材を育成する。

2. 教育者・研究者の育成

学部教育で修得した専門的知識と技術を基盤にさらに学識を深め、看護学の体系化と看護技術の開発を積極的に推進していく能力を育成する。看護学の最先端の理論と知識、方法を学び、急速に進展している看護学の高等教育を担う人材を育成するとともに、博士後期課程へ進学し研究者として自立できる能力を有する人材を育成する。

3. ディプロマ・ポリシー

・人材育成目標（社会における顕在・潜在ニーズ、修了生が身につけるべき資質・能力）・学位授与の方針

医学系研究科看護学専攻では、博士前期課程において以下に掲げる資質・能力を身につけた者に修士(看護学)を授与します。

豊かな人間性と幅広い視野を基盤として科学的な視点から看護学の学識を教授研究し、卓越した看護実践能力と創造的な研究能力を持つ人材の育成を目的とします。

1. 看護援助学コース

ヘルスケアシステムにおいて質の高い看護援助を提供するために、看護援助の理論と科学的思考力を獲得し、新たな看護援助の開発ができる人材を養成します。

2. 看護管理学コース

社会のヘルス・ニーズに対応して、最良の看護を組織的に提供し、計画・組織化・支持・調整・統制といった諸活動を展開できる人材を養成します。日本看護協会認定看護管理者規程第21条に定める実務経験を有する者は認定看護管理者認定審査の受験資格を得ることができます。

3. 地域・在宅看護学コース

地域の人々の健康的な生活を維持・増進するための保健・医療・福祉の効果的連携や在宅療養者の生活の質向上に向けて専門的看護が実践できる人材を養成します。